

氏名	押野 修司	部署	作業療法学科	職名	准教授
研究分野	小児領域の作業療法、乗馬が知的障害児の姿勢制御におよぼす影響、作業療法教育への3Dプリンタの活用				
学位	修士（リハビリテーション）				
学歴	2003年筑波大学大学院教育研究科修士課程修了、2017年首都大学東京大学院人間健康科学研究科作業療法科学域博士後期課程単位取得退学				
経歴	1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	埼玉県作業療法士会（理事）、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（理事）、動物介在教育・療学会（副理事長）、日本作業療法士協会（学術誌査読者）、埼玉コグトレ研究会（アドバイザー）				

【2024年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	第2章動物介在の理解 コラム 作業療法と理学療法、動物介在活動・教育・療法 必携テキストBasic Web動画付き	共著	あり	株式会社Gakken、200p		的場美芳子（監修）、鹿野正顕（編集）、佐野葉子（編集）、檜垣史（編集）、的場美芳子（編集）、向宇希、名和圭子、要武志、山本真理子、北川健史、土田浩生、押野修司、鹿野都、柴埼妙恵、高木美紀、生野佐織、青木博史、佐藤美月	2024年10月
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	介護老人福祉施設における高齢者と伴侶動物の共生のための動物（犬・猫）への支援方法－質的データ分析手法SCATを通して－	共著	あり		ヒトと動物の関係学会誌、69、84-91	田島明子、安藤孝敏、押野修司、安野舞子	2024年8月
2	特集 発達期領域のトピック	単著	あり		作業療法学芸雑誌、2、6-7	押野修司	2024年6月
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	3Dプリンタを活用した作業療法教育プログラムの2年間の効果	共同	第58回日本作業療学会、札幌市		○押野修司、小池祐士、久保田富夫		2024年11月
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	該当なし						
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	作業療法概論		1	1年生必修。「発達期領域における作業療法」をテーマに発達期の作業療法の特徴について、事例を通して概要について講義した。			
2	小児保健看護学（健康開発学科）		2	1-2年生選択。発達時期の子どもの障害とその対応について講義した。資料は動画教材、静止画を多く使用し、福祉用具についても提示した。			
3	スタートアップセミナー		12	1年生必修。学生が意欲的に課題に取り組み、気づきを得られるよう、講義準備・講義、プロジェクト型学習を運営した。			

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	発達期作業療法学演習	○	15	3年生必修。小児の発達マイルストーンについて、作業遂行課題（遊び、食事、排泄、更衣、整容）、作業遂行要素（運動、感覚-知覚-認知、心理、社会機能）に分け、動画、静止画を多く使用した。
2	生活環境技術学演習		4.5	3年生必修。スタンプングによる革小銭入れ作りを実施した。型紙作り、革の切り出しから、染色、レーシングまで実施した。作品について自己評価及び活動分析を実施し、レポート作成を課題とした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床作業療法技能実習		1	2年生必修。作業療法での面接をテーマに2名1組で行わせた。模擬面接の場面を見学、模倣、実施する機会を提供した。
2	作業分析学実習		10	2年生必修。3Dプリンタを活用した自助具の作業療法学生としてのアイディアをグループ学習させた。クラス内におけるプレゼンテーションを課題とした。中間発表会により進捗状況を把握し、最終発表会ではコンテスト形式で投票、学生相互評価を実施した。
3	発達期作業療法学実習	○	25	3年生必修。観察・面接、乳幼児発達スケールに関する講義と子どもの発達状況の把握とさらなる発達を促進するための提案を行うことを目的に、教員が子ども、保護者へのかかわり方を例示し、学生にかかわり方を指導した。越谷市子ども家庭部保育入所課に依頼し、保育所見学実習（1日）を実施し、目標設定、結果報告、振り返り・情報交換会を実施した。
4	臨地総合実習（身体機能・精神機能）		1期：2024年4月～5月（7w） 2期：2024年6月～7月（7w）	4年生必修。1期3名、2期3名を担当した。中間訪問により、学生と指導者の実習状況を把握し、必要に応じて課題量の調節を依頼した。中間訪問は、実習病院の状況を把握し、原則として訪問可能であれば対面の中間訪問とした。
5	IPW実習		2024年9月30日～10月3日（4d）	4年生必修。県立大学学生5名（看護2、作業1、社子1、行動1）のチームを担当した。対面実習で1事例を担当した。児童発達支援事業所における多職種連携を学んだ。
6	臨地体験実習（精神機能）		2024年8月26日～9月13日（3w）	3年生必修。2名を担当した。1名は条件付きでの実習であったため、事前の電話連絡、実習1週目および、2週目にも訪問し、学生および実習指導者の状況の把握に努めた。
7	臨地体験実習（身体機能）		2025年2月17日～3月9日（3w）	2年生必修。3名を担当した。中間訪問により、学生と指導者の実習状況を把握し、必要に応じて課題量の調節を依頼した。
8	臨地体験実習（高齢期・発達期）		2025年2月17日～3月9日（2w）	3年生必修。発達期について、科目担当者と共同で実習施設確保をおこない、実習前に紙面事例検討会を分担した（1事例担当）。現場実習では、実習中間地点で、科目担当者と分担し電話にて学生および実習指導者の状況の把握に努めた。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023～2024年	主指導 0名	副指導 11名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	卒業研究論文集第23巻（2024）の編集	2024～2025年	表紙、目次、ページ、巻頭言、本文、奥付を整え、業者に依頼した。	

4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	専門職連携を学ぶ講座「チームビルディング研修」	埼玉県立大学	3名の教員で実施した。研修運営と講師を担当した。講師としてはチームで自己紹介、職場のチームワークにおける自身の関わりの振り返りと貢献するかについてグループワークと全体共有を担当した。	2024年5月
2	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	3Dプリンタを使ってみよう（小学生）	2024年7月
3	リアル体験教室	埼玉県	3Dプリンタを使う作業療法士になりたい	2024年7月
4	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	3Dプリンタを使った作業療法（中学生）	2024年8月
5	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	3Dプリンタを使ってみよう（小学生）	2024年8月
6	子ども会イベント	埼玉県立大学	3Dプリンタを使ってみよう（千間台西二丁目自治会 子ども会）	2024年8月
7	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	3Dプリンタを使った作業療法（高校生）	2024年8月
8	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	3Dプリンタを使った授業体験（学校教員）	2024年8月
9	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	現場で使える3Dプリンタの活用法（専門職、卒業生）	2024年9月
10	発達支援サポーター育成研修・レベルアップ研修「発達障害児のための感覚運動遊び支援実践研修」	埼玉県発達障害総合支援センター	作業療法士2名で実施した。補助講師を担当した。実技研修の際の、遊具の取り扱い、グループの際のファシリテータを担当した。	2024年9月
11	専門職連携を学ぶ講座「多職種チームによる実践事例研修」	埼玉県立大学	5名の教員で実施した。研修運営と講師を担当した。講師としては「馬介在療法におけるチームワーク」を担当した。	2024年9月～11月
12	オープンカレッジ講座「第2回知的障がい者サッカー体験会&体力測定会」	埼玉県立大学 FC ALMA	3名の教員、1名の学生アルバイトで実施した。体力測定会を担当した。測定は単純反応時間を担当した。	2024年10月
13	高校出張講座（地域連携センター）	静岡県立伊豆伊東高等学校	講師「作業療法概論」を担当した。学科のパフレット、3Dプリンタで作成したオリジナルしおりを配布した。	2024年10月
14	2024年後期ASAETアカデミー 「動物介在療法を行うために～終末期医療について知ろう・考えよう」	特定非営利活動法人 動物介在教育・療学会	4名で実施した。運営と講師を担当した。講師は、「終末期のリハビリテーション」を担当した。	2024年12月
15	職員研修会「チームビルディング研修」	社会福祉法人 誠会	3名で実施した。運営と講師を担当した。講師はアイスブレイク「Good&New」を担当した。	2024年12月
16	東京都リハビリテーション病院研修会 「3Dプリンターを活用したリハビリテーション」	東京都リハビリテーション病院	2名で実施した。運営を担当した。主催者が持っている3Dプリンタの操作をデモンストレーションし、フィラメント交換を担当した。	2024年12月
17	職員研修会「チームビルディング研修」	社会福祉法人 誠会	3名で実施した。運営と講師を担当した。講師はチーム活動（業務遂行上）の問題の明確化とチャレンジ目標の設定、成果発表を担当した。	2025年1月
18	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	現場で使える3Dプリンタの活用法(専門職・卒業生：国立病院機構 埼玉病院)	2025年2月
19	高等学校 探求授業協力	武蔵越生高校	ICTを活用したリハビリテーション：3Dプリンタが生み出す福祉と支援の未来	2025年2月
20	厚生労働省指定臨床実習指導者講習会	一般社団法人埼玉県作業療法士会	厚生労働省指定臨床実習指導者講習会 世話人（ファシリテータ）	2025年3月
21	オープンカレッジ講座	埼玉県立大学	現場で使える3Dプリンタの活用法(専門職・卒業生：新越谷病院)	2025年3月
22	専門職連携教育研修	浜松市立看護専門学校	3名の教員で実施した。運営と講師を担当した。講師は、専門職連携教育科目運営の実際と課題、ファシリテータ経験談を担当した。	2025年3月

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等					
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期	
1	一般社団法人 日本作業療法士協会		学術誌「作業療法」編集委員会 査読者	2023～2024年	
2	一般社団法人 日本作業療法士協会		日本作業療法学会 演題審査委員	2024～2026年	
3	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		理事、学術部長	2022～2024年	
4	一般社団法人 埼玉県作業療法士会		学術誌「作業療法学芸雑誌」編集委員	2023～2024年	
5	日本リハビリテーション連携科学学会		学術誌「リハビリテーション連携科学」査読委員	2022～2024年	
6	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会		理事、副理事長	2022～2024年	
7	特定非営利活動法人 動物介在教育・療法学会		学術誌編集委員	2023～2024年	
8	一般社団法人 Roots4		理事	2024～2026年	
9	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会		理事、会計委員長	2023～2024年	
10	埼玉コグトレ研究会		アドバイザー	2021～2024年	
11	日本保健医療福祉連携教育学会		第17回学術集会 実行委員	2023～2024年	
(3) ジャーナリズムでの発言					
	メディア等の名称			内容	年月
1	該当なし				
(4) その他					
	項目	相手方等	内容	期間	
1	該当なし				
5. 学内運営					
	項目	内容		期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携教育研修センター員。現職者向けIPE研修会、IPEアドバイザー会議を担当した。		2024年4月～2025年3月	
2	全学的委員会及びセンター業務等	地域連携委員会の委員。		2024年4月～2025年3月	
3	学科等における委員会等	卒業研究発表会の運営。		2024年10～11月	
4	学生支援	学年担任（3年次）。		2024年4月～2025年3月	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）					
	受賞名		主催	受賞年月	
1	該当なし				
7. 特許の取得					
	特許名		特許番号	登録年月	
1	該当なし				
8. 特記事項					
1	該当なし				